平成27年度

めざせ！不読率0

◆能代市小・中学校「学校図書館」の取組◆

７／２７(月)　　学校図書支援員合同研修会にて

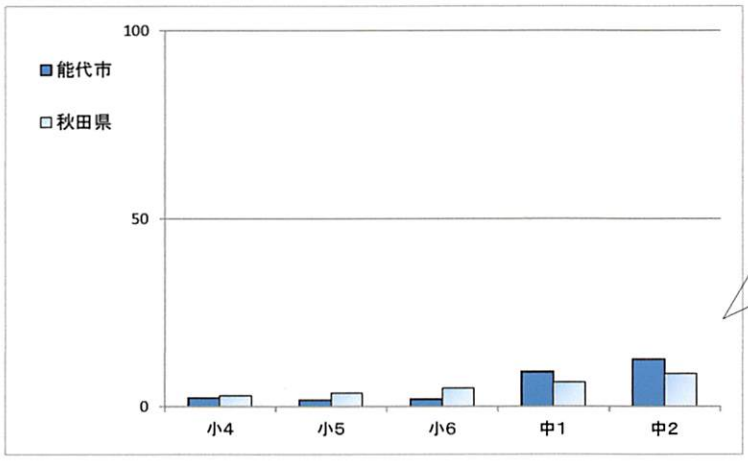
能代市教育委員会

秋田県学習状況調査より

「1か月に1冊も本を読まない子どもの割合（不読率）」

能代市分析結果

平成26年度

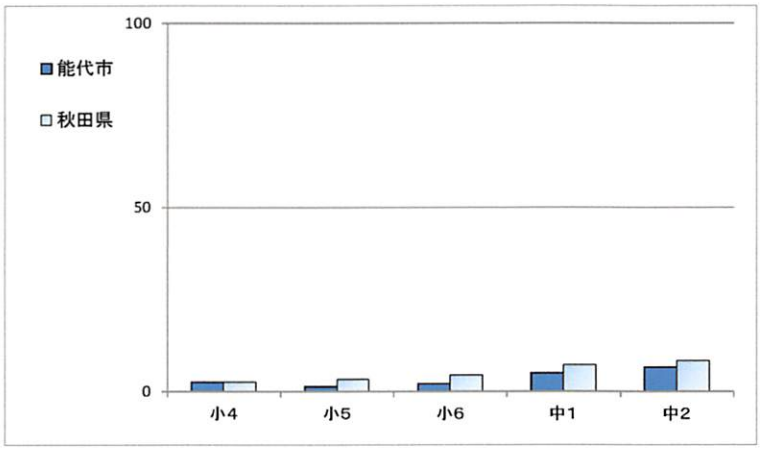


平成２６年度は、中学校の割合が県平均を上回っていることが課題でした。

平成２６年度の課題を基に、平成２７年５月１５日の「平成２７年度　読書活動推進研修会」において、今年度のテーマを「めざせ！不読率０」と宣言し、各校に、学校図書館経営はもちろんのこと授業の見直し等を図っていただきました。その結果平成２７年度　県学習状況調査において、今年度の結果は次のとおり、全ての学年で県平均を下回りました。

この冊子は、各校の今年度の取組をまとめたものです。他校の取組を参考に、今後も子どもたちのために、さらに魅力的な学校図書館となるよう工夫改善いただければと思います。

平成27年度



全ての学年で、県平均を下回りました！
各校の取組に感謝いたします。

「不読率０」を目指して
～　「不読率０」を達成するための読書活動　～

淳城西小学校　教諭　平川　佳恵

１　今年度のめだま

「不読率０」を達成するために，授業や日常活動の中に読書の時間をつくる。

２　実践の中から

①　必読図書選定と実施

各学年の担任が，児童に読んでもらいたい本を設定し，必読図書として取り上げた。児童が全部の本を読むことができるように，教科書に出てくる本のシリーズ（レオ＝レオニシリーズや昔話シリーズなど）を選定した。今回，完読できたクラスは，１５クラス中６クラスであった。

学校図書支援員の方にも協力していただき，図書室で選びやすいように，まとめて並べておく工夫をした。

②　並行読書を設定した国語学習

国語の学習で並行読書を意識した学習に取り組んだ。１年「じどう車くらべ」，「うみのかくれんぼ」などの学習では，学習で使いやすい本を選んで購入した。

また，各学年の教科書で紹介されている本を選びやすいように，まとめて並べて配置している。

③　学校図書館の環境整備

季節に合わせて図書館の本を並べて紹介したり，図書委員会からのお薦めの本を紹介したりなどして読書への関心を高める工夫をした。

学校図書支援員の方の協力により，廊下や本棚に定期的に本を紹介していただいている。また，小学生新聞にも関心をもってもらうため，カウンターに置き，注目できる工夫をした。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○図書館の環境整備には，学校図書支援員の方の大きな協力もあり，明るく活用しやすい図書室になっている。児童が活用しやすいように，このまま継続していきたい。
必読図書は，継続して行っているため，児童の中にも定着してきている。そのため，意識して完読しようとする児童も増えてきた。

●一部の児童は，なかなか本を読もうとせず，完読できない児童もいる。今後は，完読させるために，本の選出の工夫をしたい。

「不読率０」を目指して
～　淳城南小学校，「能代っこ家読ノート」を活用して　～

淳城南小学校　教諭　佐藤静香

１　今年度のめだま

「不読率０」を達成するために，家庭と連携しながら，「能代っこ家読ノート」を活用する。

２　実践の中から

①南小家読の日を設定する

毎月第３日曜日を南小家読の日として家庭で読書するように呼びかけた。家族に読み聞かせをしてもらったり，一緒に読んだりして，家読ノートに感想を記入し，学校に持ってきてもらうようにしている。

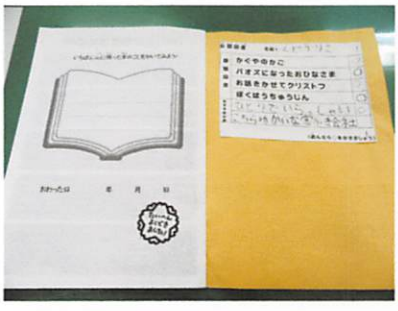
「でんでんむしのかなしみ」を読んで

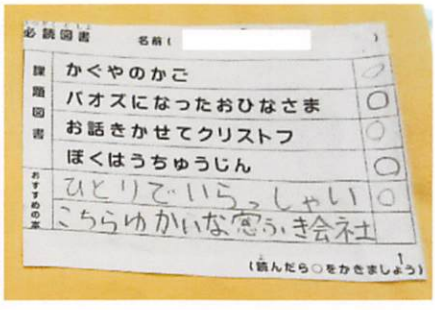
＜おうちの人からのコメント＞

「かなしみ＝悲しい・苦しい・悔しい」と思うことはだれにでもあるので，その思いをどう自分の中で受け止めて，今後に生かしていくか考えていってね。（4年・母）

各学級に家読おすすめの本を常備し，家読の日に合わせて，順番に子どもたちに貸し出している。

②「おすすめの本」を読むことを奨励する





家読ノートに載っている「おすすめの本」を図書室に準備し，いつでも読めるようにした。また，「必読図書」として，おすすめの本の中から２冊を選んでカードに記入させ，読んだら感想を書くということにした。家読ノートに必読図書カードを貼り，読書の足跡としている。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○家読の日を設けることで，１か月に１冊以上の本を読むことができた。また，本を通して家族とのふれあいができるので，楽しんで読書できた子どもが多かった。

○おすすめの本の中から読みたい本を子どもに選ばせたので，意欲的に読書することができた。

●今後は，家読の日以外の時にも，家庭でも進んで読書する子どもを育てるための支援を考えていきたい。

「不読率０」を目指して
～　本に親しむ“あかしやの子”を育てる　～

第四小学校　教諭　伊藤　葉子

１　今年度のめだま

本に関する情報を子どもや家庭へ発信して連携を図りながら，本に親しむ“あかしやの子”を育てる。

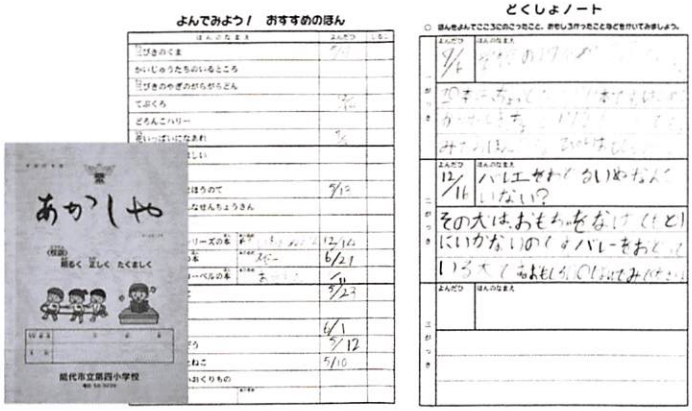
２　実践の中から

①“先生おすすめの一冊”の紹介

夏休み前に，図書委員が全職員へ図書室にある本の中から推薦する本について，インタビューし写真にとった。

それを，図書室に“先生おすすめの一冊”として紹介するコーナーを設けるとともに，図書だよりで２回に渡って掲載し，各家庭へ配布した。

②あかしやノートの活用



本校では，子どもの成長の跡を記録するものとして，あかしやノートを作成している。

あかしやノートでは，おすすめの本や読書の記録などを記入している。おすすめの本については，年度末に先生方が相談して決めている。図書室にも学年に分かれておすすめの本を紹介しているコーナーがある。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○図書委員会の活動を図書だよりで発行して紹介したり，あかしやノートを家庭とやりとりしながら活用したりすることによって，家庭を巻き込みながら読書をすることができた。図書室では，休み時間に紹介カードを真剣に見ている子どもの姿が見られた。

●学習の資料として図書を進んで活用できる子どもを育てるための支援を考えたい。

「不読率０」を目指して
～第五小学校，本と児童の距離を縮める～

第五小学校　教諭　京　幸美

1　今年度のめだま

「不読率０」を達成するためにイベントを通した魅力ある図書室づくりと，良書に親しむための環境づくりをする。

2　実践の中から

①「読書まつり」開催で，児童を呼び込む

来室する児童を増やせないかと，「読書まつり」のイベントを行った。読書集会で開催を知らせ，読書川柳や読書キャラクターを募集し図書室の中や廊下に掲示した。また，「読書くじ」をやり，当たりが出ると，３冊借りられることにした。図書館には例年よりもたくさんの児童が訪れた。同時にまた，市立図書館との連携で行った「としょかんスタンプラリー」の参加者も多かった。その他，自由に書き込みの付箋紙を貼れるこども新聞コーナー，宇宙コーナーや，市の図書館から借りている本のコーナー（常設）も，人気のコーナーである。学校図書支援員の渡邊さんの協力で，本に触れてみたくなる展示や掲示の工夫がされ，先生方にも大好評だった。

②図書館から並行読書の配本をする

渡邊さんに協力を仰ぎ，学級文庫を図書室から全学年の教室に配本した。新しい国語の教科書に載っている本をほとんど購入した。教科書に紹介されている本を前期と後期に分けて準備し，図書委員に運んでもらう。今年度は，読書タイムを毎日設定したので，本に触れる機会が増えた。この他の学級文庫も借りられるようにしている。

3　成果と課題（○成果　●課題）

○児童が喜んで本に触れる機会を増やすことで，図書館に活気が生まれた。

○並行読書できる本を教室に配本し，常設の学級文庫にすることでたくさんの児童が良書に触れられた。担任の先生が準備しなくてすみ，児童が学習に関連する本を読める。

●今後は，授業で本をどのように活用していくかを検討し，「進んで本を読む」児童を育てるための支援を考えていきたい。

「不読率０」を目指して
～　読書環境の充実　～

朴瀬小学校　教諭　佐藤かおる

１　今年のめだま

「不読率０」を達成するために，子どもたちがどんどん本を手に取るような読書環境を設定する。

２　実践の中から

①お薦めの本コーナーの設置

学校図書支援員の佐藤さんの「お薦めの本コーナー」を設置した。低学年と高学年向けの本を選定し，楽しいポップカードも作ってもらった。本は学期ごとに変えておくようにしてくれた。子どもたちはその中から本を読むようになった。

学級の中にも「読書コーナー」を設置し，担任お薦めの本を置くようにした。授業に関連する本や子どもが喜びそうな本を並べたことで，子どもが手に取る機会が増えた。

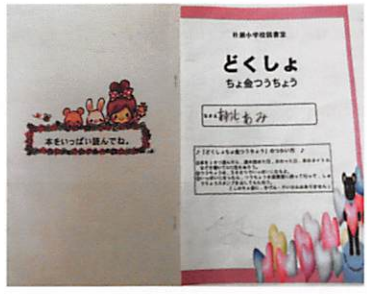
②図書委員を活用した読書推進活動

図書委員が季節に応じた環境づくりや「お薦めの本」の選択を行った。図書室廊下にコーナーを設けておいたり，図書室の黒板を利用して本を置いたりした。また，本の貸し出しを呼びかける放送では「私のお薦めの本は～です。」と一言話すようにした。朝学習の「日本語タイム」の時間を利用して読み聞かせも行った。

③その他

読書カードを「読書貯金通帳」として取り組ませた。５０冊読むと１冊終わるようになっている。

朝の時間を活用して図書室で全校読書を行っている。１冊の本をじっくり読めるようなった。



３　成果と課題　（○成果　●課題）

○学校図書支援員の佐藤さんや先生方のお薦めの本コーナーを設置したことで，学年に応じたよい本に触れる機会が増えてきた。

●自分に合った本を選ぶことができるための支援を考えていきたい。

「不読率０」を目指して
～竹生小学校，読書の幅を広げる～

竹生小学校　教諭　清水　久美子

１　今年度のめだま

「 不読率０」を達成するために，本を読みたくなる空間づくりと必読図書の選定を行い読書の幅を広げる。

２　実践の中から

①図書室改造

これまでの図書室の配架は、購入した年度毎に本が並べられていたり，教科書に掲載されている本が学年毎に紹介されていたりしており，いろいろな種類の本を読みにくい状態になっていた。そこで，本を選びやすいように，物語を作者毎のあいうえお順に配架した。また，階段状に本を面陳列して紹介できるような本棚に改造したり，廊下に椅子をおいて本を手にとって読みやすい空間づくりを行ったりした。

②必読図書の選定

国語の教科書に載っている本の中から，各学年１０冊を必読図書として選び，必読図書カードにして全校児童に配付した。必読図書は，読みやすいように各教室に置いた。すべて読み終わった人は，その都度，全校集会で紹介して表彰した。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○読書が楽しいと思ってもらうために，たくさんの本を手に取ることのできるような場所づくりから始めた。図書室改造を６年生にも手伝ってもらったため，６年生がいろいろなジャンルの本の存在を知り，昨年度よりも読書量が増加した。本を探しやすくなり，これまでよりもいろいろな種類の本を手に取るようになった。

○必読図書の選定や表彰を行うことによって読書意欲が高まっていた。また，必読図書には、普段読まないような種類の本も含まれており，いろいろな種類の本があっておもしろかったという感想が多く聞かれた。

●今年度は，委員会が主体となる読書意欲を喚起する機会がなかった。今後は，児童が本を紹介しあう機会を定期的に設けたい。

「不読率０」を目指して
～　全校で読書の楽しさを共有し合う　～

崇徳小学校　教諭　成田　奈津子

１　今年度のめだま

読書の世界をより豊かにするために，全校児童が読書体験を共有できる活動を実施する。

２　実践の中から

①読み聞かせ会を開く

１学期の始めに，市立図書館のホワイトブックスさんに毎年「出前お話し会」を開いてもらっている。今年度は，２学期と３学期にも地域ボランティアの方を講師に，全校で読み聞かせを実施した。その他，委員会活動でも読み聞かせを行ってきた。

②授業で読んだ本を他学年に紹介する

複式学級では，国語の学習単元のゴールに，互いの並行読書活動を紹介し合う展開を設定した。また，朝学習や昼の全校読書の時間を活用し，他の学級に出かけて紹介することもあった。

各学級が担当する全校の「わくわく集会」において，本を読んだり図鑑で調べたりしたことを，ニュースやボードシアター劇などの工夫された表現で全校に伝えていた。

③みんなで読書リレーに取り組む

昼休み後に縦割り班で集まって全校読書を継続していることから，班ごとに同じ本を読み，しおりに感想を書いて本をリレーしていく活動を取り入れた。高学年が低学年の世話をしながら読み進めていき，最後には，はじめに読み聞かせた絵本を含めて，全校児童が５冊の本を読むことができた。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○読み聞かせでは，読むことが難しい児童も読書の世界に浸ることができた。ボランティアの方が紹介してくれた本は，読書への興味・関心を高めることにつながった。

○読み聞かせや紹介活動の後に必ず，発表や手紙などの形で感想を返す活動を取り入れることにより，よく聞いて自分の思いをもち，それを表現するという力も伸びてきた。

○読書リレーのしおりでは，友達の感想を一覧して読めるので，比べながら読み進めて，いろいろな考えや感じ方があるということを認め合う場にもなった。

●今後は，今年度行ったことを継続するとともに，さらに児童が進んで多様な本を読もうとしたり，友達や家族などと本の感想を話し合ったりするような活動を取り入れ，みんなで読書の楽しさを共有し合えるような雰囲気作りを推し進めていきたい。

「不読率０」を目指して
～鶴形小学校，さまざまなジャンルの本と出会わせる～

鶴形小学校　　教諭　　袴田　徳子

１　今年度のめだま

委員会，職員，地域ボランティアによるお話会や，教科書に出てくる本の教室設置を通して，さまざまなジャンルの本に触れることができるようにする。

２　実践の中から

①お話会を毎月行う

４月，９月の地域ボランティアによる読み聞かせをはじめ，図書委員会の児童，職員がそれぞれ本を選び，お話会を毎月１～２回行っている。図書委員は，本のおもしろさが伝わるように事前に練習して臨んでいる。時間は，昼休みの２０分間である。

ほとんどのお話会で，全校児童が一斉に聞く。物語，大型絵本，科学読み物など，さまざまなジャンルの本を児童に紹介するようにしている。

②教科書に出てくる本を教室に設置する

授業の中で，同じ作者が書いた本，似ているテーマで書かれた本を読み比べるという時間を設けた。「やまなし」との関連で宮沢賢治の本を読んだり，意見文を書くために「平和」をテーマに書かれた本を読んだりした。

教科書に出てくる本を教室に設置する他，図書室内にも特設コーナーを設けている。そのため，必要な本を必要なときに活用することができた。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○お話会や教科書に出てくる本の教室設置を通して，児童は普段自分では選ばない本にも出会うことができた。そして，じっくりと読んでみたいという興味を引き出し，読書の幅を広げることができた。

●学年相応の本を進んで手に取ることができるように勧めていきたい。

「不読率０」を目指して
～ 活発な読書活動をうながす手立て ～

浅内小学校　　教諭　浅野麻実子

１　今年度のめだま

児童の読書活動を活発にするために，集会や授業などいろいろな機会をとらえて本の紹介をする。

２　実践の中から

①集会を活用して

巡回図書の際に，職員とともに図書委員会の児童にも読みたい本を選んでもらい，実際に注文したことを集会で全校児童に報告した。

図書委員会の子どもたちは，本を選んだ理由を発表し，「間もなくわたしたちが注文した本が届くので，是非図書館に来て読んで欲しい。」と呼びかけた。

②読書単元を活用して

１年生の国語「本をえらんでよもう」の導入を工夫した。まず図書館で読みたい本を選ばせ，みんなに本を見せながら選んだ理由を発表させた。１年生なりに様々な意味づけをして本を選んでいたことが分かり，興味深かった。

次に教科書で紹介されている本の実物を見せると，目を輝かせ，読んでみたいという気持ちの高まりが感じられた。

そこで，教科書で紹介されている『ぐりとぐら』シリーズから『ぐりとぐらのおきゃくさま』を読み聞かせ，アニマシオンをした。「これ，だれのもの？」クイズで持ち物を当てたり，「物語バラバラ事件」で９枚の挿絵をストーリー通りに並べたりした。最後にお気に入りの挿絵を選ばせ感想を発表させた。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○図書委員が図書の購入に関わっているということに興味をそそられ，集会の後，図書委員会が選んだ本の貸し出しを希望する児童が多数来館した。

○教科書に載っている本が教室にあるということが，読書意欲を高めた。

○読み聞かせやゲームなどで本に親しんだ後で好きな場面を選ばせたところ，自然な形で感想を発表することができていた。

●今後は図書委員会の発表や読み聞かせばかりでなく，例えば，高学年が縦割り班の下学年の児童に読み聞かせをするような，全校的な交流を計画したい。

「不足率０」を目指して
図書館と連携した国語科の指導について
～読書意欲を高めるための指導の工夫～

常盤小学校　教諭　　梅田　由美子

１　今年度のめだま

読書活動の充実を図り，「読みたい」「楽しい」という気持ちを高める指導

２　実践の中から

①全校辞書ひきコンクールの開催

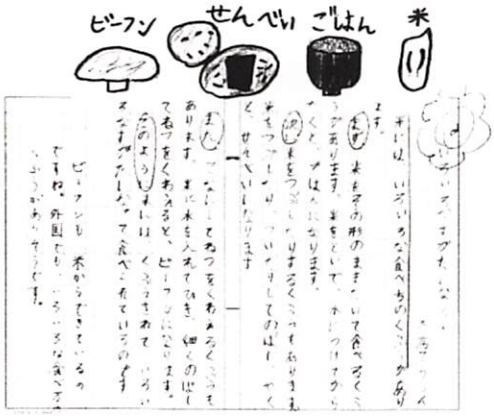
（６月と１２月の年２回・・・すぎのこタイム）

昼のすぎのこタイムは，基本的に全校読書（読み聞かせもあり）の時間である。

多くの言葉に慣れ親しむことを目標に，図書館で辞書引きコンクールを行った。小規模校のため全校（２年生以上３８名）一斉に図書館で取り組むことができた。一位は５分間で１６問の成績であった。

②図書だよりの活用

（多く読んだ人を紹介）



③図書館の本を活用した授業

国語科の「読むこと」の指導において，日常生活において読書活動を活発に行うことが求められている。

３年生は，「大豆のはたらき」の文章全体の組み立て（話題提示－具体例－全体のまとめ）と関連させて，並行読書の指導を行った。児童は主体的に学習に臨み，とうもろこしや米，牛乳，さつまいも等が姿を変えた食品になる様子についてまとめ，お互いに読み合うことができた。

他学年の国語の授業も学校図書支援員と打**いろいろな姿になる米について**ち合わせと連携を進めながら授業をしている。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○辞書引きコンクールは，新しい言葉と出会うことによって向学心や好奇心につながる学習活動となった。学級や家庭でも継続的に辞書に親しむ姿が見られた。

○並行読書をきっかけとし，教科書の読みを自分で選んだ本の読みに適用することができた。資料にまとめて書くことで，要約の力が身に付いた。

●今後も，国語の時間に限らずに他の教科でも読書を進める指導をしていきたい。

「不読率０」を目指して
～図書室に足を運ぶ工夫を～

二ツ井小学校　教諭　矢野　倫子

１　今年度のめだま

「不読率０」を達成するために，学級担任と図書室へ本を借りに行く機会を増やしたり，児童自身が図書室に行きたいと思えるような工夫をしたりする。

２　実践の中から

①学級担任と一緒に，図書室へ本を借りに行く機会を増やしている。

・休み時間の自由貸し出し以外に，学級文庫として一人２冊，夏休みや冬休み前に一人３冊を貸し出している。その際，学級担任や学校図書支援員が，読み応えのある物語をすすめたり，その児童の発達段階にふさわしいと思われる本をすすめたりしている。

・学習の関連図書を，学校図書支援員や学級担任に“全て準備してもらう”のではなく，学級担任と図書室へ行き，“アドバイスを受けながら児童が自分たちでさがす”という方向で，できるだけ進めている。

②児童自身が図書室に行きたいと思えるような工夫をしている。

・全校集会や行事等で校長がブックトークを行い，「図書室でぜひ読んでみてください。」と呼びかけている。また，その本を図書委員が紹介している画像を本校のフェイスブックに掲載することで，保護者から「図書室で読んでみたら。」とアドバイスすることもあると聞いている。ブックトークやフェイスブック掲載後，図書室前に展示している本を見に行ったり，貸し出しを希望したりする児童が多く見られた。

・おすすめの本を各学年で１０冊決めている。１０冊読んでカードに感想を書いたら，賞状がもらえる。また，図書委員会が各学年のおすすめの本から５問ずつクイズを出し，全問正解者は賞状がもらえるという取組をしている。

・６年生企画の「なかよし祭り」で校内を回る際，図書室では，「○○という本をさがそう。」という問題に取り組み，縦割り班で協力して本をさがした。その場では本をさがすだけだが，あとで図書室に来て，読んでいる児童が多く見られた。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○学級担任が一緒に図書室に行き，学級担任も本に親しんでいる様子を見せるだけでも，児童の意識は変わる。また，図書室に足を運ぶ回数を増やすよう工夫することが，児童の本への興味・関心を高めることに効果的であった。

●「図書室に行く」イコール「本をたくさん読んでいる」というわけではない。今後は，図書室に行ってなんとなく読書をするだけでなく，自分にふさわしい本を検討したり，友達に本をすすめたりといった，自ら本に親しむ姿勢を育てていきたい。

「不読率０」を目指して
～本を生徒の生活の中に～

能代第一中学校　　教諭　丹波　加奈

１　今年度のめだま

本が生徒にとって身近な存在になるように，生徒と本との物理的な距離を縮める。

２　実践の中から

①図書室で授業を行う

本校の図書室は教室や特別教室から遠く，なかなか足を運びにくい位置にある。５月の段階で１年生にアンケートをとったところ，半数以上が「ほとんど図書室に行かない」という結果だったため，図書室の使い方を覚えてもらうためにも国語の授業を図書室で行った。

授業をする前にあらかじめ学校図書館事務補助員と打ち合わせをし，図書室内の関連図書を準備してもらった。普段手にとらないような本をグループで読み，生徒たちはとても楽しそうな様子だった。また，授業前に早く移動し朝読書用の本を探す生徒もいた。

②本の紹介コーナーを，生徒が必ず目にするところに設置する

図書室前にのみ掲示していた本の紹介ポップやポスターを，生徒が毎朝必ず通る階段の踊り場に掲示した。朝だけでなく，休み時間や放課後にも多くの生徒が立ち止まってポスターを見ていた。

右の写真のように貼り，図書室前に掲示してあるものと定期的に交換して，新刊図書を宣伝した。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○授業後やポスター掲示後は図書室の利用人数が増え，また「こんな本が読みたい」というリクエストも増えた。特にポスターにある図書は人気が高く，紹介文によって生徒の本への興味・関心が高まることが改めて分かった。また昨年度より図書館利用率が上昇し，本の貸し出し冊数も増加した。

●本の紹介ポスターの効果が大きかった。しかし現在，図書の紹介は図書課と学校図書支援員のみで行っているので，今後は図書課と連携して様々な本を生徒同士で紹介し合うような機会を設けたい。

「不読率０」を目指して
～　本と出会うために　～

能代第二中学校　　教諭　　秋田谷みゆき

１　今年度のめだま

読んでみたい本に，出会わせるために，学級文庫の充実とビブリオバトルに挑戦

２　実践の中から

①各教室に「月ごとに変わる学級文庫」を設置

図書専門部が管理し，「学級文庫」を設置している。学校図書支援員さんが選書してくれた 図書を１月ごと に隣のクラスに移動させ， 新しい図書を提供する仕組みで，楽しみにしている生徒もおり，利用する生徒も多い。

②朝の巡視と朝読書に臨める環境づくり

朝の１５分間は，朝読書の時間である。教室には，担任，廊下からは，学年部の職員が朝の指導をして，クラス全員が，シーンとした状態で読書に臨めるようにしている。

③ビブリオバトルに挑戦

毎年恒例の図書集会で，今年はビブリオバトルに挑戦した。バトラーは，全校から募り，１年生２人，３年生１人の３人が出場，ジャッジは，各クラスから代表一人（１２人）と校長，教頭の１５人で行った。初めてのため，全校がどういうことが行われるか興味津々だった。本の紹介の仕方や内容がよく，聞いている全校生徒が引き込まれた。

発表したバトラーにも，温かい声援や拍手が送られた。ジャッジをして，優勝者を決定したが，ジャッジは別として，紹介された本を読んでみたいという生徒が多く，充実した図書集会となった。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○朝読書の集中している状態をみると，「不読」はあり得ないと感じる。しかし， 設定された時間で何となく読んでいるより，読みたい本があって読む生徒になってほしいという願いから，今年ビブリオバトルを行ったことは，生徒の心を動かしたと言える。

●今後は，続きを家で読みたい，読むのが待ち遠しいと思える本に出会わせ，それが習慣になるようにしたい。

「不読率０」を目指して
～生徒が図書室に足を運ぶ仕掛けづくりを～

能代東中学校　教諭　　鈴木　浩佳

１　今年度のめだま

「不読率０」を達成するために，生徒が図書室に足を運んだり，本を手に取ったりする仕掛けづくりに努める。

２　実践の中から

①図書室での仕掛け

・「図書館ビフォー・アフター」の実施

学校図書支援員合同研修会のワークショップをとおして思い切ったレイアウト変更や展示の工夫を行い，より本に興味をもってもらえる図書室づくりに努めた

・生徒の興味をひく仕掛けの工夫

生徒の読みたい本のリクエストを受け付けたり，全国一斉読書週間に合わせた「図書室くじ」などのイベントを実施したりした。

②日課の中での仕掛け

・朝読書の実施

学級文庫を設置し，毎朝８：１５～８：３０を朝読書の時間と位置づけることで毎日読書する時間を確保した。

・全校一斉読書の実施

学年全員で同じ短編を読み，感想を交流し合う活動を，５月に２回実施した。読む本については学年の実態や学担の思いなどに合わせて，図書支援員と相談して選定した。（１年「よだかの星」　２年「ガク物語」　３年「高瀬舟」，全学年共通「よいことわるいことって，なに？」　）

③授業での仕掛け

・図書室利用ガイダンスの実施（１年）

４月の国語の授業を使って図書室へ行き，どこにどんな本があるか実際に確かめた上で本を選び，一冊実際に借りてみるという活動を行った。

・ビブリオバトルの実施（１年）

面白いと思った本を紹介するためには，面白いと思った本がなくてはならないし，読まないと紹介できない。図書室で熱心に本を探す姿が見られた。

・進路の学習，総合学習での資料探し（各学年）

３　成果と課題（○成果　●課題）

○「図書室ビフォー・アフター」のあと，以前と比べて雰囲気も変わり，利用しやすくなったという生徒の声が聞かれた。また「図書室くじ」などのイベントに興味をひかれた生徒が多く，１１月は図書室利用者が増加した。

○ビブリオバトルの授業にむけて，図書室の貸し出しが増加した。またビブリオバトルの単元終了後も，友達の紹介していた本に興味をもち，借りていく生徒も見られた。

●年間を通した朝読書の活動や，５月の全校読書なども合わせると，不読率は０になるはずなのだが，…。読んだ本について，年間を通して振り返る活動も必要なのかもしれない。

「不読率０」を目指して
～魅力ある図書室づくり～

東雲中学校　教諭　鈴木　育子

１　今年度のめだま

「魅力ある図書室」づくりのために，本を手に取りやすい図書の配置を含めた図書室の環境づくりと生徒会とタイアップした図書案内。

２　実践の中から

①委員会報「てんま」による新刊図書案内

新刊図書を情報委員が委員会便りで紹介し，学校図書支援員の佐藤さんに紹介した本のコーナーを設置してもらった。コーナーは，最も入り口に近いテーブルをまるまる一つ使い，図書室に入ってきた生徒が思わず手にとってみたくなるように，ポップなどをそえて可愛らしいディスプレーを行った。

（1年生：ブックトーク集会）

②学年集会でのブックトーク集会

今年度は１年生と２年生の学年集会でブックトークを行い，本の紹介を行った。

２学期は，１年生が「部活動」というテーマで，１年生の情報委員が部活動に関する本を数冊紹介した。

２年生は３学期に「よい学校生活を送るには」というテーマで「よい人間関係づくり」や「自分磨き」に関する本を紹介する予定である。また，市立図書館で行ったビブリオバトルで優勝した生徒にも発表させ，いろいろな本への興味付けを行うつもりでいる。

③読書を喚起する企画

・市立図書館から借りた本とともに東雲中独自でピックアップした本を保護者や生徒に紹介し，貸し出しを行った。
・本をたくさん読む生徒へ「オリジナルしおりをプレゼントする企画」や「長期休業中の本の貸し出し制限を広げる企画」，「多読者を表彰する企画」などに取り組んできた。
・今年は「読書の時間」を一時間設定してもらったので、事前に「お薦めの本」などを紹介し，読書量の増加を図ることができた。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○　今年度も新刊図書をたくさん入れることができ，国語の授業や委員会とタイアップした図書紹介と図書室作りで生徒の興味をひくことができた。学校図書支援員の佐藤さんが来室した生徒に，それぞれに合う本を紹介してくれるので，生徒にとって図書室が魅力的な場所になり，昼休みに多くの生徒が来室し，佐藤さんと話をしながら，本を手にとってみるようになっている。貸し出し冊数も，昨年を上回っている。

●　本を好きになった生徒は，自ら本を読むようになるが，依然として本を読まない生徒もいるので，そうした生徒への支援を工夫していきたい。

「不読率０」を目指して
～読書の輪を広げよう～

能代南中学校　教諭　　大山　訓代

１　今年度のめだま

生徒同士で本を紹介し合い，読書の興味を深める

２　実践の中から

（１）授業でビブリオバトルの実践

１年生の１学期後半の国語の授業で，ビブリオバトルを実践した。教師も生徒も「ビブリオバトル」という言葉を初めて聞く人が多かったので，まず，やり方の説明から行った。最初は練習として，生徒全員が知っている作品がよいと思い，小学校の教科書から５作品を選び，ビブリオバトルを行った。次に，自分の推薦本を紹介し，チャンプ本を決定した。最初は５分という長さに戸惑う生徒もいたが，慣れていくうちにジェスチャーを入れるなどの工夫も見られ，楽しく紹介することができるようになってきた。

ビブリオバトルの授業風景

（２）図書委員による本の紹介

学校祭で図書委員による本の紹介コーナーを設けた。簡単な紹介文を添えて，本をその横に置いた簡単なものだが，地域の方や家族が手に取り，それを眺めている様子を見て，満足そうにしている図書委員が多かった。

（３）集会で表彰

各学期末に学年集会や全校集会で，学校図書館の本をたくさん借りて読んでいる人の表彰を行った。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○元々，読書が好きな生徒が多かったが，読んでいる本に偏りがあった。お互いに紹介することによって，読書の幅が少し広くなった生徒もいる。

●ビブリオバトルを知る生徒が１年生だけなので，授業の中に取り入れ，今後全校でビブリオバトルを行っていきたい。

「不読率０」を目指して
～委員会活動を活かした読書活動の啓蒙～

常盤中学校　教諭　三浦　利昭

１　今年度のめだま

「不読率０」を達成するために，文化委員会の活動を中心に，生徒同士の読書意欲を高めるようにする。

２　実践の中から

①文化委員の取り組みとして

図書活動に関わる文化委員会が，新たな試みとして，２つ企画し取り組んだ。１つは，全校朝会でのお薦めの本の紹介である。文化委員を初めとした複数の生徒が，表紙の画像と合わせてお薦めの本を，内容豊かに紹介した。感想や質疑で興味を持ち，朝読書で手にする生徒が増えた。２つ目は，併設する小学校への読み聞かせ活動である。休み時間や放課後に練習に取り組む姿が，他の生徒への刺激となっていた。

②国語の授業と委員会活動との連携

国語の授業で作成したお薦めの本の紹介シートを掲示し，文化委員がその本を学年のワークスペースに合わせて展示したり，新刊図書を長机の上に平置きして目につきやすいようにしたりした。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○題名や表紙で，本を手に取っていた生徒が，他の生徒の感想やお薦めの言葉で興味をもち，自分の本の世界を広げることができるようになってきた。また，自分の感じたよさを相手にうまく伝えようと，表現を工夫する姿も見られた。

●朝読書の継続や今回の取組などから，本に親しむ生徒は増えてきた。今後は図書館等の書籍の資料としての活用について考えていきたい。

「不読率０」を目指して
～「ワタシの一行」紹介文の試みから～

二ツ井中学校　　教諭　保坂由希子

1　今年度のめだま

読書活動単元の授業で図書館を活用し、本に親しみをもつ生徒を育てる

2　実践の中から

①国語の読書活動単元「『ワタシの一行』づくり」

国語の授業の一環として、某出版社のコンクールを参考に「『ワタシの一行』づくり」という学習を行った。好きな一冊から気になった一行を選んで紹介するのだが、あらすじの紹介や作品への感想ではなく、心に深く残った一行についてそれを選んだ想いやエピソードを綴るものである。授業を図書館で行い、本を探したり友達と情報交換したりしながら本に親しませる機会とした。

②「ワタシの一行」コンクール

完成した①の紹介文を、学校祭で図書館に掲示し、生徒だけでなく来校した保護者にも見てもらえるようにした。また、学年ごとに優秀作品を互選し、票の入った作品・図書館に置いてある本を取り上げた作品を紹介した。学年を超えて様々な紹介文に目を通す生徒の姿が見られた。

3　成果と課題（○成果　●課題）

○おすすめの本の紹介という活動はこれまでも行っていたが、「一行」に限定することで生徒にとっては取り組みやすかったようで、これまで読んだ数多くの本に再度目を通そうとしていた。そのために図書館での授業は有効であったと思う。

○図書館への掲示によって、他学年の作品に触れたり、紹介されている本など図書館の本を手にとったりする生徒が見られ、読書意欲の喚起につながった。

●今後いっそう、図書館に生徒を呼び込む仕掛けをつくりたい。